

ど變化を認めない。

屠殺時、Schultz u. Schiling 氏法により毛細管を使用し血液凝固時間を測定した結果では、皮下及び筋肉内注射例では著明な延長が見られるが、静脈内注射例では對照例と殆んど變化を認めない。

細胞の Heparin 攝取状態については、静脈内注射例では Heparin は全身諸臓器の血管外膜細胞及びその周囲組織細胞に極めて多量に攝取されているのに、皮下及び筋肉内注射例では、かゝる所見は認められない。

各臓器の病變については、注射方法により多少の差異はあるが、主として肝、腎などの實質臓器やリンパ節、副腎などに濁濁腫脹、軽度の壊死、網内系細胞の腫脹、出血及びヘモジデリンの沈着などの所見が見られる。

何れにしても Heparin 注射による障害は、注射方法により非常に異なることが明らかとなつた。従つて投與方法を無視しては、Heparin の副作用は論じられないと思われる。この點は著者のえた新知見で特に強調したい。

著者はさらに、皮下及び筋肉内注射例において少量注射でも死亡し、静脈内注射例においては大量注射を行つても何故死亡しないかに關しても追求した。

39. 既往に新生児重症黄疸の死亡例を有する妊婦3例について

(廣島通信) *平本憲雄, 日野八洲行

新生児重症黄疸についてはいろいろの原因が提唱され、その症例報告も散見されるが、最近當科において、新生児が重症黄疸で死亡した既往歴を有する婦人の今回分娩後の兒の経過に興味ある4例を経験したので報告する。

第1例は25歳の4回經産婦で、第1、第2兒は自然流産し、第3、第4兒は重症黄疸でそれぞれ生後6日目、4日目に死亡した。今回は豫定日の11日前に2800gの男兒を分娩した。生後直ちに臍帯を切斷し、豫め用意した健康未婚婦のO型血液80ccを臍帯静脈より輸血し、その後連日5%ブドウ糖、シーメタ、カチーフ、メチオニン、メガピオンを注射した。黄疸は3日目より發現し4日目に最高に達し20日目に消失し、良好の轉帰をとつて退院した。血清學的検査では父O C D E M N, 母A C D E M, 兒O C D E M Nで母血清は兒血球を凝集せしめる。Rh因子によるものでないことは明らかでA B O式で母A兒Oの異型適合であるが、母血清に β の異常亢進があり、そのために起つた重症黄疸と考えられる。

第2例は第1例と同一の婦人が次回に分娩したもので

ある。これも前回同様の方針で健康な3000gの男兒をえた。兒は同じくO型でO型の血液50ccを輸血した。妊娠中、分娩前後に詳しく血清學的検査を行い、明らかに高度な β の異常亢進を證明した。

第3例は36歳の3回經産婦で、骨盤異常のため第1、第2兒は9カ月で人工早産をしたが重症黄疸で死亡し、第3兒は9カ月で自然早産し50日間重症黄疸が續き5カ月目に腦性小兒麻痺になつた。今回は10カ月初に自然破水したので帝王切開を行い2700gの男兒を分娩した。生後直ちにA B型血液40ccを輸血した。黄疸は生後20時間から發現し25日目に消失、良好の轉帰をとつて退院した。父B C D M, 母A C D E M N, 兒A B C D E M Nで母血清中に β の亢進を認め、母A兒A BなるA B O式の不適合のために起つた重症黄疸と考えられる。

第4例は30歳の3回經産婦で何れも重症黄疸で数日後に死亡している。今回は3400gの女兒で、A型血液50ccを輸血し良好の轉帰をとつて退院した。父A C D E M N, 母O C D M N, 兒A C D M Nで、母血清中に α の異常亢進を認め、母O兒AなるA B O式不適合によつて起つた重症黄疸と考えられる。

以上4例は何れもA B O式不適合による α , β の異常亢進のために來した重症黄疸で、既往の死亡例もすべてこれで説明できるものと考えられる。かゝる場合には交換輸血療法が最も良いとされているが、生後直ちに臍帯を切斷して母血の流入を防ぎ、抗體のない他の血液を輸血することにより實際的にも理論的にも相當度の交換輸血の効果を期待できる。これにより何れも良好の轉帰を取りえたものと考えられる。

40. 未熟兒の代謝並びに未熟兒の病理

(日赤本部産院) *三谷 茂, 上塚恵美子,

後藤明代, 戸井田嘉子, 北村 益, 尾見義信, 宗田太郎, 中島唯夫, 眞鍋忠寧, 菅井正朝, 謝 國權, 金杉 武, 長橋千代, 元吉正幸, 兼子和彦, 飯島信之

余らは新生児特に未熟兒について蛋白質、脂肪、含水炭素の吸収状態ならびに鹽類代謝の状態について研究するかたわら、これと平行して未熟兒の病理組織學的研究を行いつゝあるものである。

まず上塚、後藤、戸井田などの窒素蓄積状態に關しては飲用する乳汁の窒素量と尿、糞便中の窒素量とを比較するに、成熟兒においては4〜5日頃より正なる値を示すのに對し、未熟兒においては7日以内は負の値を示す。すなわち未熟兒は窒素の蓄積は多く7日以後に始ま